高校新設は無理
ほしい「環境大学」

山田　豊栄の隠された魅力は東港にあり、それだけの期待が東港にあるのであれば、たとえば県立の工業高校を造り、東工業港とより緊密になるように考えてみる必要はありませんか。

独立したものが難かしければ豊栄高校との併設、あるいは私立のものを誘致するというのも考えられますが……。

市長　県内の過疎、過密の動きに応じた高校の適正配置ということが、県の高校整備審議会の審議の眼目なんです新潟地域には二校ということで報道されていますね。

豊栄はもう少し先になると大きくなりますから、ここにも一校ということになるんですが……。それよりも急がれるのは豊栄高校の学級増加ということで、以前から運動を続けていましたが、とりあえず約三千坪の敷地拡張の予算を計上してもらい、買収を進めています。

高校を誘致するには、いまだに地元負担が必要なんです豊栄高校の場合で一億円近い地元負担をやっています。

そういうことで市として思い切って名乗りをあげられないんです。それから併設も極めて困難です。私立のものができればいちばんいいんですがね。それにしても用地など相当な提供が必要でしょう。

（山田さん）

山田　市長さんならできると思いまして……。（笑い）

そこでもうひとつ大きく、大学というのはどうでしょう。それを福島潟の周辺に。豊栄市の福島潟の周辺に。福島潟として……。

市長　前の稲葉文部大臣に環境問題専門の環境大学というようなものをもってきたらどうだろうと話したことがあるんです。外国にはそういう研究を主体にした大学があるんだそうです。

夢みたいな話なんですが、いいと思いますね。市の文化向上にも逆ひはしいですね。

葛小跡地は
文化センター
豊栄必至の市役所分館

長谷川　社会教育のことで現在ある青年研修所が、いろんな事務所などに使われていて、研修などに使えない状態です。このかわりになるものを造る計画はどうでしょう。

それから、わたくしらも野球やバレーボールの大会を計画するとき、学校のグランドを借りるのが、なかなかめんどうです。市民がいつでも使えるグランドを造っていただきたいと思いますが、そのためどは。

市長　そういう声がたくさんあるんでして、わたくしも市の計画の四つの柱にかかげた第一の「豊かさ」というのは、物質的経済的な豊かさと共に、平行して精神的豊かさを求めていかねばならんということをあげました。

これが行政の中に希望としてあまり出てこないんですが最近若い層からそういうことが聞かれるようになりました。そうすると、まず施設が問題です。

そこで、計画だけは持っており、葛塚小学校の跡地に市民会館、公民館、図書館、博物館など、いわゆる文化センターという計画なんです。

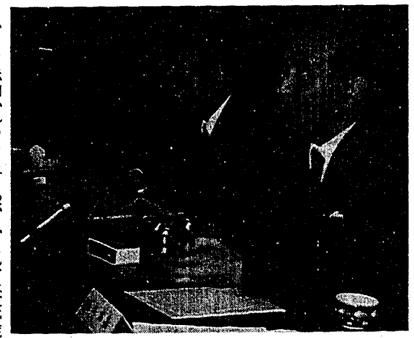
それまでの問題として、せっかく青年研修所というものがありながら、そういうために使えない。その原因はというと、市役所の庁舎がいっぱいでどうにもならん。市役所の増築は必至なんです。ところが、これ、これよりも急ぐものがあって市役所が建てられないんです。

そういうことで、農業委員会、教育委員会、社会福祉事務所が本庁から分散して市民に不便をかけているんです。

それで、現在の面積くらいの庁舎を建てる必要があるのでいまの庁舎の隣りに造ることを考えており、いつ建てるかについて市民のみなさんのご理解を得ようと考えているんです。

これには二億円以上かかりそうです。

他市の状況はというと、みんなデラックスな庁舎ができあがり、こんどは文化会館だ福祉会館だ、市民プールだなどといっているわけで、市役所の職員をいれるところもないのは豊栄だけなんですよ。


（「豊さか」は物質と平行して精神的豊かさを求めて。…市長）

早通出張所の整備

柿本　市役所窓口事務でいろいろなものがありますね。

早通団地の人口も増えていますんで、団地の中に事務の取次ぎができるものを設けていただいて、そこへ行けば用が足りるというようなことを考えていただきたいんです。

市長　早通団地には市役所出張所がどうしても必要です

いま県営住宅の管理を委託されている関係で、この管理事務所を造り、とりあえず市役所出張所を兼ねるようにします。ごく簡単な用事ならばそこへ申し込めば取り次ぐ。謄抄本の類は、手続きさえしておけばそこで交付できるようにするつもりです。

ほかの出張所も、もっと便利にしてくれないかという声があり、印鑑証明とか戸籍謄抄本とかを本庁から電送する計画をもっているんです。

ほしい市営
グランドと体育館

山田　スポーツ公園というようなものを造る計画があるようですが、青少年のために大きな期待が持てます。その辺の計画はどうなんですか。

市長　各市町村で一カ所だけ、学校を一般のスポーツに解放し、若干の補助金がくるという制度があります。葛塚中学校だけが指定になっているんです。ところが、これだけでは足りないんで、市独自で各地区に一カ校ずつ学校解放ということで各中学校を敷当させており、これは相当利用されています。

このほかに専門の体育館だとかグランド、野球場なども造りたいんですが、そこまでは手が届かないので、いまやっているのは嘉山に南運動公園を造っています。面積二万本当は公園なんですが、普通の公園でなく、運動公園ということで野球場、テニスコート、バレーコートなどを配置しています。

ついでにお話しますと、公園にはいろいろ種類があり、いちばん小さいのが児童公園これは新市街地を造るさいには総面積の三%を必ずあてねばなりません。こういうものがいくつか集まった相当広い区域を単位として近隣公園というのがあります。これがいままで市にないものですからこの第一号として嘉山の運動公園を造ったんです。

将来は葛塚の北側の方にも造る計画ですし、早通団地、尾山団地にも計画されています。しかし、そういうものができたとしても、市営グランドと体育館は是非はしいですね。

産業振興の施策
〜工業振興〜

――産業振興についてお話合い願いたいと思います。

柿本　豊栄の場合、工業はあまり発展していると思われません。こういう点市長はどう考えておられますか。

市長　いま豊栄の最も欠けている点が工業だと思うんです。たしかに第一次産業が、二次、三次へと移ってきている。年間の工業生産額は五千六億円くらいになっているが工場らしい工場がない。

それで産業構造の問題になりますが、かつてここは合併して県下一の大きな町だなどといわれたけれども、実は大農村でした。いまのところはいわゆるベットタウンであって街地は住宅中心という形できています。

それで産業都市という点からみると工業がいちばん他に劣っている。このいちばん遅れている工業振興をいかにするかということで工業導入委員会というのをつくりまして検討にはいっているんですが、まだこれでもって工業導入できるというめどはついていません。委員会で引続き検討しますが、広く市民の意見をきかせてほしいものです。

工業のないことが市の財政の貧弱な原因にもなっていますす。類似都市の工業出荷額をみると、洋食器の燕が七百億円、織物の見附が三百二十億円、栃尾が百九十億円、五泉が三百四十億円、加茂が三百五十億円、あまり工業がないようなところでも、糸魚川が百八十億円、白根が百三十億円、新井が百三十億円ですからね。最低の両津が二十五億円で豊栄がその次というのは財政力指数の順位と同じです。

のぞまれる
立体的な農業経営
〜農業振興〜

斎藤　いまの農業経営の状態は、耕地の多い人は夫婦でやっているけれども、少ない人はみんなだんなさんが出稼ぎに出ています。市の農業に対するお考えは……。

市長　豊栄の農業はどうあるべきかについて、抽象的な考えだけれども、こう話をしているんです。

農業は大体経営形態が三つに分けられる。専業と第一種兼業と第二種兼業とがあり、それが専業から二種へと地すべり的に移ってきて、ついには離農というところまできているんです。

そこで、将来第一種兼業を二つに分けて、ひとつは専業の方へもどす。もどし方に二通りあり、ひとつは面積がもの値上りし高くなっているので限度があります。そこで借りて面積を増やすかたち。

もうひとつは、いままでは平面的な農業だったけれども これからは立体的な農業でなければならないというんです限られた面積のところに、うんと高生産性の農業をやる。

いまビニールハウスの栽培をやっている面積は、豊栄が県下一です。それから花作りを木崎地区でやっていますが これも県下有数の団地です。木崎地区にはたばこや果樹もあります養鶏は岡方地区で一万羽、二万羽という規模でやっており、こうしたところでは、出稼ぎなんぞはできるもんじゃありませんね。長浦地区には酪農があります。こうして一種兼業を専業農家の方へもって行く。それからあとは、むしろ二種兼業へ持って行った方がいいんです。

そこで、そういう時期はいつかというと、東港に工業がたくさん進出して、サラリーマンがうんと必要になるときで、まだ先の話ですが、出稼ぎで日金をとるよりも、はっきりしたかたちでサラリーマンになる。そして、土地は農協だとか生産組合というようなところへまかせてしまう。

田だけは持っているけれども、仕事は一切まかせるというような、完全な二種兼業の時代がくるとわたしは思うんです。ですから、土地はあんまり売らない方がいいんです。

（斎藤さん）

（柿本さん）

同じ市内の人だったらいいですよ。売るとしても、できるだけ市外の人に売らないことにやっていただきたいと思います。

市の農業をどうすればよいかという問題は、農業団体の総力をあげてことし一年間で計画をたてるということではじめています。